

仲間を増やして70周年祝賀会を

奈良民商ニュース



秋晴れの晴天に恵まれ、はっぴを着て元気に行動しました。

奈良民商は11月7日、統一行動にとりくみました。10人が参加して民商宣伝チラシ1000枚を配布し、仲間増やしの顕彰基準を達成して全商連創立70周年記念祝賀会を迎えよう」と決意を新たにしました。

宣伝統一行動で チラシ1000枚

発行 奈良民主商工会
奈良市大森西町13-16
電話0742-33-7266
FAX 0742-34-5826
HP naraminsyo.jp



商工新聞を読み合わせ学習する参加者



チラシを配る三輪さん

行動には浜中達也会長、製菓部 大安寺支部、嶋守秀利副会長、印刷関係部 南支部、三輪昭三共済会会長、大工部 済美南支部、宇野達雄さん、縫製部 学園前支部、村木敬さん、外構工事部 南支部らが参加。午前9時半に事務所集合し、8日付商工新聞記事

記帳会

11月の記帳会は、下記の日程で開催します。

【日時】
11月17日(水)
13:30
【持ち物】
領収書・帳簿
筆記用具・電卓



絵手紙教室

絵手紙教室は、新型コロナウイルスの感染予防と、みなさんの健康を守るためにしばらくお休みします。



地域の歴史を詳しく語る高原さん(左)

読者拡大目標を達成 南支部

の「民商が出番、仲間を増やそう」の記事を読み合わせ、全国の仲間の奮闘を学びました。その後、3組に分かれて、近鉄奈良駅周辺の北市町、鍋屋町、花芝町などの地域で、コロナ支援・税金・記帳の相談は民商へと呼びかけるチラシの配布を行いました。行動後、民商のはっぴ姿を見た人に、「チラシを下さい」と声をかけられた。三輪さん、チラシを見て助かる人がいっぱいいいなあ。村木さんなど、経験や感想を出し合い交流。最後に浜中会長が「私は元読者などに声をかけ3人に購読してもらいました。商工新聞読者をあと10人を増やして顕彰基準を達成しましょう」と訴え、行動を締めくくりました。

南支部は8日、支部役員会を開催し、嶋守秀利支部長をはじめ5人が参加しました。『秋の運動』の仲間増やしについて話し合い、嶋守支部長の提起にちなみ、高原修治さん、家具製造部は従業員に、村木敬さんは行きつけのカフェ店主に、それぞれ、購読してもらうことを約束。嶋守支部長がこれまでに購読してもらった元会員ら3人と合わせて、支部目標5人を一気に達成しました。嶋守支部長は「まだまだがんばっていきますよ」と、読者拡大に意欲満々です。



全商連創立70周年動画を視聴して

学び、確信を持って 粘り強い運動を

手記
全商連創立70周年動画を
視聴して

奈良民商副会長、南支部長 嶋守 秀利

徹夜続きの日々の中で

私は今、72歳になります。若い頃、札幌・琴似というところで、さまざまな活動をしていました。奈良で自営業者（版下・写植・デザイン業）として働き始め、創業資金に関して奈良民商に相談、迷わず入会しました。

事業は1975年7月の創業時から、本当に徹夜続きで、正月もありませんでした。仕事は順風満帆でしたが、民商の役員会の後も、帰ってから徹夜仕事をし、50歳までの命だと思っていました。常任理事になったとき、私より会員歴が短い方が常任理事として活躍している

姿を見るたびに刺激され、常任理事から副会長、県連理事になりました。

わが支部、民商

支部では、役員会議案書や総会の案内などを、役員と協議しながら作成しています。

以前は、支部の会員は140人前後で、役員も常に12〜15人、支部総会には最高50人、絶えず30人ほどが参加していました。民商の会長からいつも「機関車的な役割で、今後もよろしく」と言われていました。商工新聞の「わが班、わが支部」のコーナーに2回、紹介されました。

奈良民商は現在、コロナ禍の中、統一行動でチラシ配布をしています。そのチラシを見ての電話相談や会員が知り合いの業者を連れて来るなどで、仲間が増えました。ただ、会員・役員が高齢で廃業されたり亡くなるれたりして、読者89人、会員78人、役員4人が支部の現勢です。

学びを力に運動推進を

全商連の70周年DVDを観ながら、「ほんの少しでもこの歴史の一翼を担っていた」と感じるとともに、忘れられない思い出が、走馬灯のように浮かびます。全商連創立60周年の時でした。当時、拡大推進委員長の私を記念式典に送り出そうと、目標を上回る商工新聞読者2000人を拡大し、会員も目標を超過達成しました。奈良民商の大奮闘のおかげで、誇らしい気持ちで式典に参加させていただきま



嶋守さん(右)と国分会長(当時)

会場の椿山荘で、全商連・国分総会長(当時)、来賓の日本共産党・市田忠義書記局長と私のツーショットを商工新聞記者の方に撮ってもらい、宝として部屋に飾っています(写真)。

その昔、事務局長に「民商って何ですか」と聞いたところ、「民商は学校のようなところ。大いに学び、学んだことを力に運動をすすめてほしい」と言われました。まだまだ、卒業できません。

これからも、中小業者の営業と暮らし、権利を守ってきた運動の歴史に確信を持ち、大きな民商・奈良県連・全商連を築き上げるために、より深く学び、粘り強く頑張っていこうと決意を新たにしました。

(しまもり ひでとし)